

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年9月

（1）スマートフラワー出荷安定に向けた実証を実施

8月27～30日に、秋田生花市場及び大田花き市場において、花き専門農協、市場関係者を交えた沖永良部産スプレーギク、ソリダゴのスマートフラワーの輸送実験を実施しました。切り花は一週間冷蔵保管したものと、収穫後すぐに発送したものを、3種類の梱包材及び新聞紙で包み、船便と航空便で発送しました。着荷後の市場関係者の評価では、開梱時の状態は新聞紙以外はおおむね良好との評価を得ました。今後は鑑賞期間も含めた総合評価を行い、安定出荷技術の確立を図る予定です。



（2）花き専門農協の販売額が前年比8%増加

9月6日、和泊町えらぶ長浜館で沖永良部花き専門農協総会が開催され、約80人が参加しました。令和5年度は台風6号の影響による長期出荷停止等で出荷本数が対前年比97%と減少しましたが、販売額は同108%でした。また、全量スマートフラワー出荷のキク、ソリダゴをはじめとする花き全体の販売単価は、好調に推移しました。総会后、徳州会沖永良部病院の川間医師から、「加齢に伴う体の変化を十分理解した農機具使用について」の講演があり、参加者の農機具事故防止の意識向上を図りました。

（3）高単収を目指してにんにくの栽培講習会を実施

9月13日にJA和泊会議室で、にんにく栽培講習会を生産者、関係機関31人出席のもと開催しました。JA和泊からは、にんにく栽培の一連の作業のポイントの説明がありました。その後、農業普及課からは、にんにく出荷反省会時に実施したアンケート調査で、大きな課題として挙げられていた葉枯病や、ネダニなどの病害虫対策について指導しました。今後も、800kg/10aの収量を目指して生産者、関係機関一体となって、にんにく生産を支援します。

（4）地域計画策定にむけた話し合い活動を実施

将来目指すべき農地利用の姿を明確にする地域計画の策定に向けた話し合いが、和泊町、知名町、与論町の3か町全ての集落で、町、農業委員会、農協、農業普及課等出席のもと5～9月にかけて実施されました。昨年話し合い結果をもとに作成した地域計画案や目標地図を確認し、将来の地域農業について検討しました。各町とも令和7年3月までに地域計画を策定することとしています。策定後は、地域農業の実情に応じた変更（見直し）の話し合い等を支援します。

